物にすると言ふ決心で、左の小指を剃刀か何かで、根元から斷ち切つて女に贈つた所、女は恐れて益々シユンキチを嫌つたので、今では其のホシカンになつた小指を自分の印形にしてゐる。

それから内務省公認スパイだとか言つて、社會主義の宣傳をやつたり、幸徳秋水の胸像を廉賣したり、電話も引いてゐて三疊敷位の狭い居間にピアノを据えて、お半ちんと言ふ斷髪した、十五六位にしか見えない自分の細君に、クロチヤンクロチヤンと、犬のやうな名で呼ばれながら、蛇を飼つたりして生きてゐる男だつた。

僕は觀音經をみんなに讀んで聞かしたりした。

居所が定まらないので、手紙や雜誌なんかは此處宛にして僕は頼んでゐた。

『君は坊主そつくりだな。序にお寺へ這入ると好いわい』黒瀬が言つた。

ナムアミダブ々々々々々。

ロシア人の混血兒や、深川の不良小女の團長や、以前金龍館に居た何とか言ふ女や、其の他お半ちやんも稼ぐので、四五人しか居ないのだが、晝間は湯に這入つたり、ダンスの稽古をしたりして、夕暮からボツ〳〵お化粧をして、電話が掛かると、車に乘つて出て行く。